

海外からの大学引き揚げをめぐる 問題とその位相 — 東亜同文書院大学から愛知大学への 人事的接合性と自国文化への接合 —



愛知大学創立当時の正門付近

東亜同文書院大学から愛知大学への接合性という問題は、海外からの大学引き揚げという世界に類を見ない事例であり、そのことのさらなる研究が求められています。加えて、引き揚げによって国家の内部と外部の文化がどのように接合していったかという問題につながり、探究の意義ある課題です。本シンポジウムでは、次の二つの視点からの報告を軸に海外からの大学引き揚げと人事的接合性、さらに自国文化への接合という問題を考えてみたいと思います。一つ目は、初期愛知大学の実態を、大学関係者あるいは入学者の視点から考えます。また、二つの大学の接合性の問題を教員人事の問題としてとらえ、教員の人事的側面・思想的側面から両者の性格を明らかにします。二つ目は、東亜同文書院大学から愛知大学への引き揚げの事実自体をいったん相対化させるために、中華人民共和国の成立という社会と国家の変動期における大学の接合と変容の問題を考えていきたいと思っています。

13:00~13:30

- あいさつ 川井伸一 (愛知大学学長・理事長)
神野信郎 (サーラグループ名誉顧問・中部ガス株式会社相談役・
ホテルアークリッシュ豊橋相談役・愛知大学名誉役員)
- 趣旨説明 加島大輔 (愛知大学文学部准教授)

13:30~14:00

- 「本間喜一—東亜同文書院大学・同呉羽分校、そして愛知大学—」
藤田佳久 (愛知大学名誉教授・東亜同文書院大学記念センターフェロー)

14:00~14:30

- 「小岩井淨とその時代—1945年前後を中心に—」
三好章 (現代中国学部教授・東亜同文書院大学記念センター長)

14:30~15:00

- 「東亜同文書院大学教員と愛知大学教員の人事的側面における
接合性」 加島大輔 (文学部准教授)
- (15:00~15:15 休憩)

15:15~15:45

- 「東亜同文書院大学教員と愛知大学教員の思想的側面
における接合性」 広中一成 (東亜同文書院大学記念センター研究員)

15:45~16:15

- 「新中国建国初期の大学再編」
武小燕 (名古屋経営短期大学講師)

16:15~16:45

- 「旧制愛知大学への転入予科生は404人」
小川悟 (表現技術研究所代表、愛知大学昭和33年卒業生)

(16:45~17:00 休憩)

17:00~17:45

総合討論



神野三郎・太郎氏と、神野家を訪問した創立時の関係者(撮影 神野信郎氏)

太田英一 (愛知大学教授)
松坂佐一 (愛知大学教授)
四方博 (愛知大学教授)
神野三郎 (元豊橋商工会議所会頭)
神野太郎 (元豊橋商工会議所会頭)
本間喜一 (愛知大学第二・四代学長)
林毅陸 (愛知大学初代学長)
小岩井淨 (愛知大学第二・五位学長)
河合陸郎 (元豊橋市長)
神谷龍男 (愛知大学教授)



本館前の卒業記念写真(旧制26年卒)

聴講無料・予約不要

日時: 2016年2月21日(日)

場所: 愛知大学豊橋校舎本館5階第3・4会議室

愛知大学東亜同文書院大学記念センター

愛知大学東亜

検索

東亜同文書院大学

愛知大学の前身ともいえる東亜同文書院大学をはじめ、中国の革命家・孫文に関する資料を展示



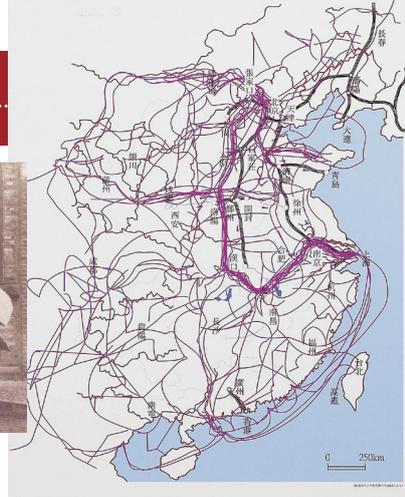
荒尾 精(1859~1896年)
1890年、東亜同文書院の前身にあたる日清貿易研究所を上海に開設。



近衛篤麿(1863~1904年)
近衛文麿の実父。貴族院議長、東亜同文会会長。東亜同文書院設立の構想を打ち出し、当初南京に開校した。



根津 一(1860~1927年)
日清貿易研究所の運営に携わり、近衛篤麿に協力して東亜同文書院設立に尽力。院長も務めた。

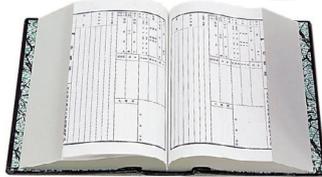


大旅行

東亜同文書院では卒業年度になると3~5人のグループごとに中国大陸各地へ3~5ヶ月におよぶ徒歩中心の調査旅行が行われた。(現在の大学2、3年生)
卒業論文となった「調査報告書」(写真左)、日記体の記録「大旅行誌」は当時の中国を知る貴重な資料となっている。



孫文と山田純三郎
山田純三郎は、兄の良政亡き後、東亜同文書院教員を経て、孫文の側近として活躍。



東亜同文書院大学の学籍簿・成績簿

敗戦・閉校にともない、本間らの苦心により接収を免れ、何よりも優先して上海から教職員、学生が持ち帰ったもの。

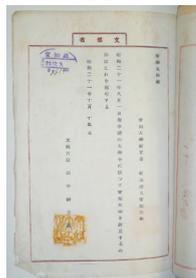


愛知大学

創成期から現在の愛知大学に至るまでに蓄積されてきた、多くの史資料の中でも代表的なものを展示

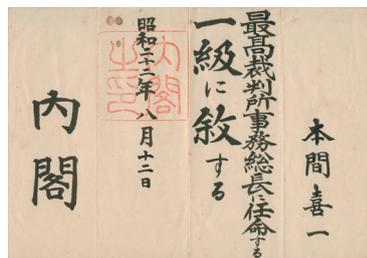


本間喜一
(1891~1987年)
東亜同文書院大学最後の学長(第3代/1944~1945年)。戦後は愛知大学第2代・第4代学長。



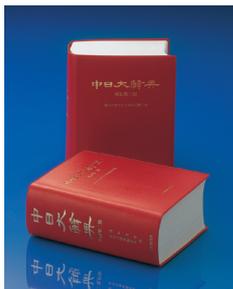
愛知大学設立認可書

東亜同文書院大学最後の学長であった本間喜一が1946(昭和21)年3月に帰国し、同年8月1日申請、同年11月15日に認可されるというスピードであった。これには当時文部大臣であった田中耕太郎(第一高等学校・東京帝国大学時代の同級生で親友)の存在が欠かせなかった。



最高裁判所事務総長辞令

戦後の新憲法施行に伴い最高裁判所が発足、そして三洲忠彦最高裁判所長官の指名により初代最高裁判所事務総長に就任した。



中日大辞典

日中国交正常化前に東亜同文書院作成の華日辞典原稿カード14万枚が中国から愛知大学に返還、1968年日本で初めて刊行された。



平松礼二「日本の新しい朝の光」(2003年)

平松は1964年愛知大学を卒業し、2000年から10年間『文藝春秋』の表紙を担当した日本画家。



東松照明

「皮肉な誕生」(1951年)
東松は1954年愛知大学を卒業し、晩年は沖縄を拠点にした写真家。本作品は在学中に撮影された。



創成期(1946年)豊橋校舎



愛知大学記念館(旧本館)
(文化庁登録有形文化財)



愛知大学公館



旧名古屋校舎(三好)



車道校舎



名古屋校舎
(2012年4月開校)



愛知大学東亜同文書院大学記念センター

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 Ⅱ0532-47-4139 <http://www.aichi-u.ac.jp/orc/index.html>
《交通アクセス》豊橋駅より豊橋鉄道渥美線で5分愛知大学前駅下車